

令和8年度人文社会科学研究所（一次募集）

『歴史政治学』 出題の意図

<法文学専攻 法学コース 一般選抜>

本問題の目的は、入学後に政治史・政治思想の研究を進める上で必要な政治学の素養が修得できているか否かを確認することにある。問題文にある人物および概念は、いずれも西欧政治史・政治思想史の平均的な教科書で言及されているものであり、また設問内容もしばしば取り上げられる政治学上のテーマである。

I 機械論的自然観に支えられた人間論と自然権、これらに基づく国家観が階層的封建社会と一線を画していることが指摘できているかを問う問題である。

II エゴイズムに引き裂かれた市民社会に対して、人間本来の自由を回復すべく一般意志のもとでの共同体形成を試みるも、ここに個人の自由を奪う危険性が備わっていることを理解できているかを問う問題である。

III 功利主義が多くの政策や改革運動を通じて平等の実現に寄与した一方で、その人間観を構成する感覚主義的経験論と快樂主義的道德思想には個々人の内面的・道徳的自由を掘り崩し、科学的エリートによる合理的統治を招来する危険性がある点を理解できているかを問う問題である。